

1 学校で設定した「令和元年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 基礎学力向上研究の成果を生かした基礎・基本の徹底とコミュニケーション力の育成を図り、学ぶ楽しさ・喜びが味わえる授業を目指す。―教育課程、研修（教員の授業にかかわる評価、児童の学力・学習状況を含む）
- (2) 「すわっ子10の約束」に基づいた学年・学級経営と異年齢集団活動の充実を図り、豊かな人間性をはぐくむ教育を推進する。―生徒指導（いじめの防止等を含む）
- (3) 全市的取組を教育活動に生かした、地域総掛かりによる望ましい生活の習慣化を図り、心身ともに健康で、たくましい子を育てる教育を推進する。―学校保健
- (4) 学習の場、生活の場としての教室、校庭等の環境整備と事故防止の徹底を推進し、安全・安心で心豊かな学びを保障する環境教育の充実を図る。―学校安全、施設設備
- (5) 児童と向き合う時間を確保し、児童一人ひとりに応じた指導・支援の充実を図る。また、組織的・機能的な心のサポート体制の充実を図る。―生徒指導・教育相談・特別支援教育
- (6) 教職員、保護者、地域住民など地域総掛かりで子どもたちをはぐくむコミュニティスクールを実施し、家庭・地域・関係諸機関との連携・協力による希望をはぐくむ教育を推進する。―組織運営、保護者、地域住民との連携

2 評価結果について

- (1) 「小中一貫スタンダード」の継続実践、各調査を活用した授業改善、基礎学力向上のための研修を推進した。児童アンケート「授業が楽しい」は93%「先生は授業をわかりやすく教えてくれる」は99%の児童が肯定的に答えている。「進んで勉強している」の項目は73%の肯定評価であり、自発性や自己指導能力には課題が見られる。
- (2) 共通理解、共通行動を徹底し取り組んできた結果、児童アンケート「名札を毎日つける」「進んであいさつをしている」の項目はそれぞれ93%、94%が「よくできた」「できた」と回答した。また、「友だちと仲よく過ごしている」では96%が肯定的評価をしており、いじめ認知件数も今年度は1件（昨年度は3件）と減少している。
- (3) 「いきいき生活カード」を活用し、家庭と連携して基本的な生活習慣を図った。また、民生委員・児童委員、主任児童委員と連携し、児童の健全育成に取り組んできたが、望ましい生活習慣化と児童の体力には課題が見られる。
- (4) 毎月の安全点検や環境整備に取り組んできた結果、安全に関する職員の評価は高いものとなった。保護者アンケート「学校は事故防止への配慮をしている」の項目も昨年度より上昇し、96%の肯定的評価だった。
- (5) 学校行事の精選を実施し、児童と向き合う時間を確保してきた。また、児童一人ひとりに応じた指導・支援の充実のために個別の指導計画や教育支援計画を整備し実施した。教職員による「個別の指導計画や教育計画が作成され、それに基づいて実施されているか」の項目は100%が評価をしている。学校行事の精選をしてきたが、まだ負担感を感じたり在校時間が長かったりする教員もおり、引き続き働き方改革を推進し、心身ともに元気な教員による質の高い教育活動を実践していく。
- (6) 桜山中学校と連携して、コミュニティ・スクールを実施して、域総掛かりで子どもたちをはぐくむ教育を進めた。教職員による「保護者や地域住民からの要望や意見を把握し、適切に対応しているか」や「地域の教育資源を積極的に活用しているか」の項目では100%の評価をしている。学校ホームページの充実にはまだ課題がみられる。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・コミュニティ・スクールを推進し、課題の見られた「自己指導能力の育成」や「望ましい生活習慣の定着」を学校だけではなく、地域総掛かりで育てていく。学校運営協議会による熟議の場で議題とし、地域・保護者・学校3者が何をできるのか議論を重ねる。
- ・学校体育の充実を図るよう、体力向上推進委員会を機能させ、運動の習慣化による取組を充実させる。また、児童が運動する時間や場を確保し、児童の体力向上を推進する。
- ・教科等部会をより機能させ、PDCAの特にCAを話し合うことでより効率的で効果の高い指導方法を検討する。また、他校のよりよい業務改善の取組を取り入れ、働き方改革を推進する。
- ・ホームページの充実について検討し、更新計画や掲載内容等を明記することで、積極的な情報発信を推進する。